



『鬼滅の刃』人気はすさまじく、ピーク時には単行本が全国の書店で品切れとなり、その過熱ぶりが報道された。Getty Images

おそらく一般的にも、近年人気を博したマンガとして、超ビッグヒットとなった吾峠呼世晴『鬼滅の刃』などは記憶に残っているだろう。この作品は二〇二一年には累計発行部数が一億五〇〇〇万部を突破し、人気のピーク時には書店で品切れが相次いだ。アニメ化も成功しており、二〇二〇年に公開された『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』の国内興行収入は四〇四億円超、日本の映画史上一位となった。

しかも『鬼滅の刃』の成功は、昨今のマンガ産業全体の活況を示す一例にすぎないと言ってもいい。業界全体が、ここ一〇年以内に大変な好景氣を迎えているのだ。出版科学研究所の調査によると、二〇二一年のコミック市場（推定

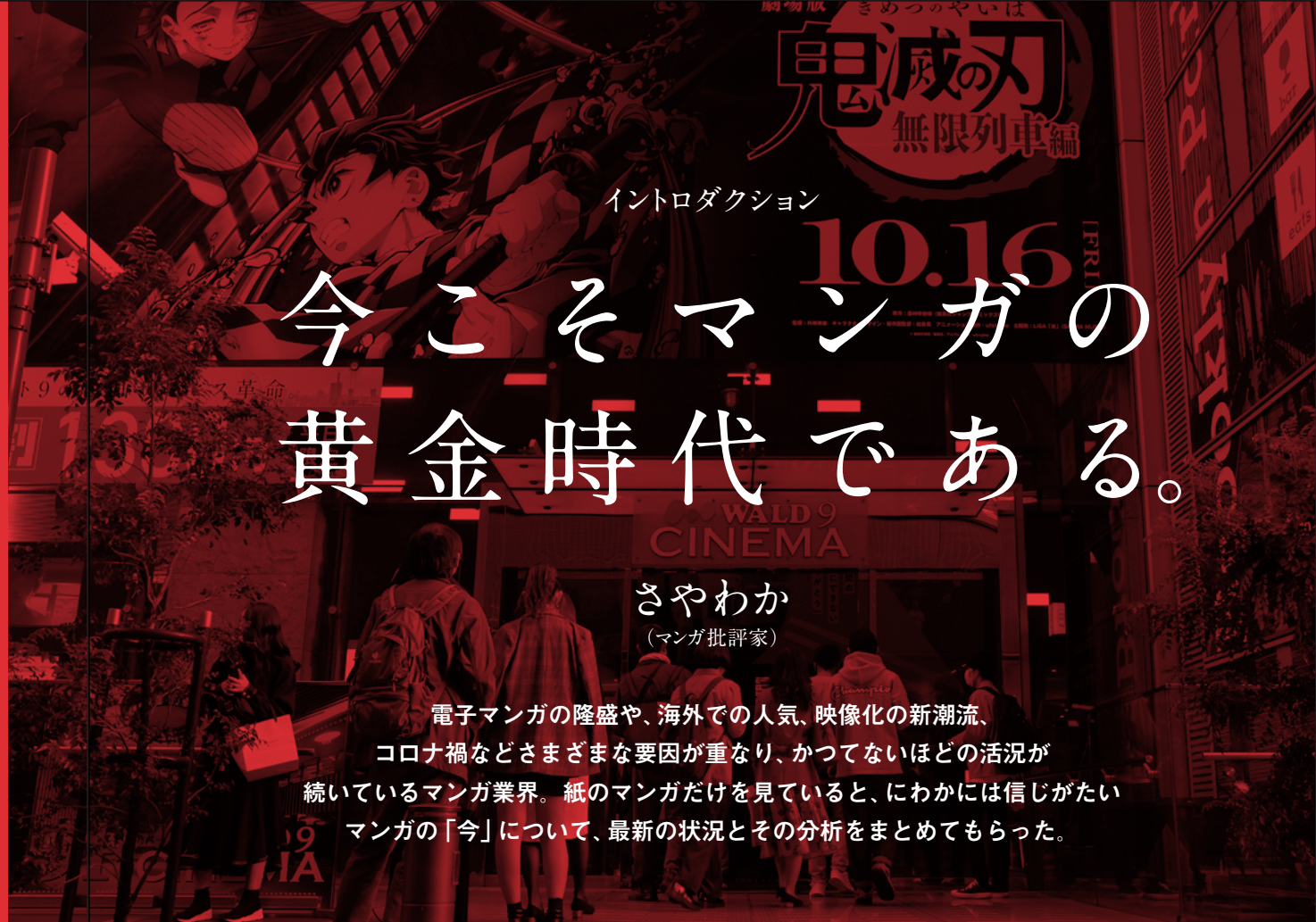


日本でも人気の藤本タツキ『チェンソーマン』（集英社）だが、海外でも大人気。米国コミック業界でもっとも古く、もっとも権威のある賞のひとつであるハーベイ賞にて最優秀マンガ賞を史上初となる2年連続で受賞している。

また、こうした日本マンガの新潮流は、グローバルな市場でも好意的に受け入れられている。たとえば前述の『鬼滅の刃』の映画は日本と同様、コロナ禍の最中に海外でも好意的に受け止められたと報道された。海外ではほかにも『呪

海外でもマンガが一般的な娯楽に

販売金額）は前年比一〇・三パーセント増の六七五九億円。過去最大を記録したという。この数字は、かつて「週刊少年ジャンプ」がギネスブックに登録された年、つまりこれまで「日本でいちばんマンガが売れていた頃」だと言われていた一九九五年の五八六四億円を二年連続で更新したものだ。したがっていまの時代は日本人が、いや人類が、史上もっともマンガを読んでいる時代なのである。



今こそマンガの黄金時代である。

イントロダクション

さやわか
(マンガ批評家)

電子マンガの隆盛や、海外での人気、映像化の新潮流、コロナ禍などさまざまな要因が重なり、かつてないほどの活況が続いているマンガ業界。紙のマンガだけを見ていると、にわかには信じがたいマンガの「今」について、最新の状況とその分析をまとめてもらった。

2020年に公開された映画『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』は日本国内の歴代興行収入1位を記録。海外での人気も高く、全世界では517億円となっている。原作単行本の累計発行部数は1億5,000万部を突破。このほかにゲームやグッズといったコラボレーションも盛んに行われている。Getty Images

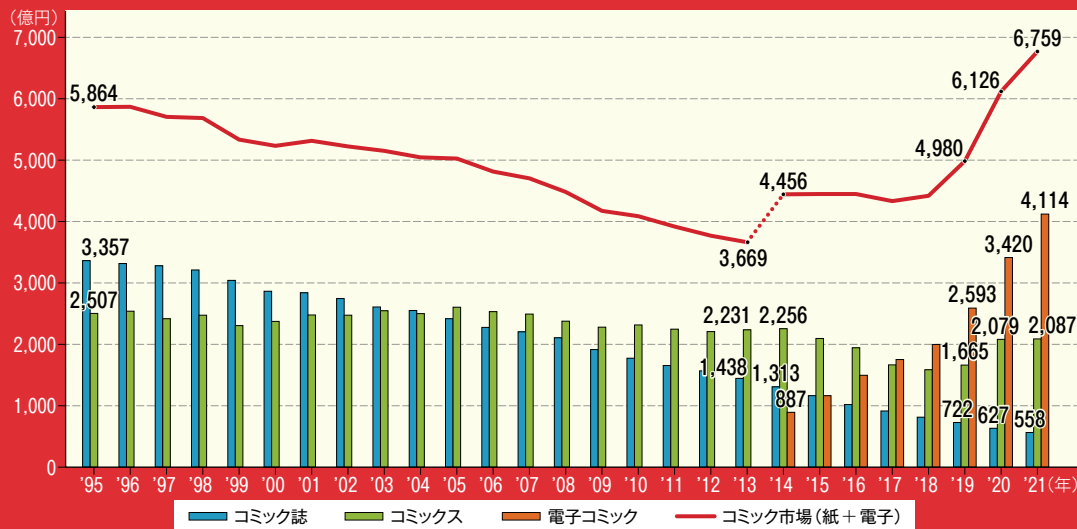
あなたは、最近どれだけマンガを読んでいるだろうか。年配の方にこう問うと「かつては熱心に読んだが、いまは面白い作品がなくなった」とか、「昔のように誰もが読んでいた作品がなくなったのではないか」と漏らす声がよく聞かれる。最近ではインターネットをはじめエンターテインメントの種類や作品数が増えたため、マンガの魅力が相対的に下がっているのではないかと、言う人もいる。つまり、マンガが娯楽の王様だったのは過去の時代であり、いまやジャンルとしての地位は下がっているのではないかと、いうのだ。

こうした声は、一見するとそれなりに説得力があるようにも感じられる。周囲にマンガを読んでいる人がいないなら、なおさらそう思うだろう。

「ジャンプ」がギネスに載った時代を超えた

だが、実はそれは現状に即した意見ではない。なぜなら、マンガ業界はいま、史上かつてない、空前の好景氣にわいているからだ。マンガが娯楽の王様から脱落したどころか、いまこそマンガの黄金時代だと言っているのだからである。

コミック市場推移



コミック市場の推移を示したグラフ。出典：出版科学研究所『出版指標 年報 2022年版』

この続きは本誌でぜひ！